

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311
FAX 66-1314



尾道市因島のほぼ中心に位置する島中分教会は4年前に設立百周年を迎えた。因島の歴史は古く、しまなみ海道の開通と共に産業・文化の更なる発展が望まれる。

立教180年
12月号

海外伝道講習会 開催

11月月次祭

海外部



手振りを交えてお話くださる平野先生

海外部(上原志郎部長)は11月21日、平野知三先生(本部准員・海外部誌)を講師に迎え、大教会11月月次祭後に「海外伝道講習会」を開催。役員・部内教会長・よぶばく・信者ら多数が受講した。講話要旨は次の通り。

おたすけとは、相手が必要としているものを、必要なだけ、必要な時に届

けてこそだと思えます。独り善がりになること、自分流を押しつける事は一番具合が良くありません。お互いが一人ひとり違い、心の自由をいただきたい、置かれていない立場も環境も違い、思い込みで相手の為にしても、それが必ずしも相手にとって素直に受け入れられないこともあります。国内でもそうなので、海外に行けば尚更です。育つた環境も、喋っている言葉も何もかも違うということを確りと弁えなければいけません。

私は20代後半から12年間アメリカにいました。アメリカでは宗教に対する感覚も違いました。アメリカにはユダヤ教、アジアの宗教、イスラム教の人もいれば、無宗教の人もあります。しかし原則としてキリスト教の国です。イギリスのキリスト教一派の方々が渡ってきて、アメリカが出来ました。西部開拓でもまずキリスト教の教会ができ、その周りに町が出来ていきました。おそらくアメリカでキリスト教の教会のない町は無いと思います。大統領もキリスト教以外の人は一人もいません。日本では、信仰をしていると言えぱ警戒されたり変わった人だと思われる

かもしれない。しかし、アメリカでは信仰をしていないと言えぱ、却って怪しい人だと警戒されることもあります。信仰してこそまともな人間、信仰していない者は何をするか分からない。傲慢な人間だと思われかねません。そういう宗教観からして随分と違っています。そのようなキリスト教で満ち足りている国に、なぜわざわざ天理教を持って行かなければならないのかという疑問がずっとありました。

私はおちばの学校を出て、教会長さんが留守になっている横須賀の教会に住み込み、2年間布教の真似事をさせてもらいました。はじめは勇んで戸別訪問をしていましたが、大概断られます。宗教なんて結局どれも同じだと言われたこともありまして、決してそうではないと思うのですが説明が出来ない。勉強すればするほどよく分からない。自分自身に説明が出来ないのになぜ人様に勧めることが出来るのか。たまたま自分の家が天理教だったから信仰しているのかと、段々悶々として、信仰していることに自信が無くなってきました。そんな時に父から手紙をもらいました。手紙には、「教会というのは、教勢が伸びる時

もあれば、人が離れ停滞する時もある。独りになる時もある。しかし、一人でも親神様に心を繋いでいる者がいれば心配はいらない。必ず理の栄えをお見せ頂ける。お前がその一人になつてくれ。信者さんを作るとかは考えず、今はおさづけを取り次ぐことに専念してくれ。」

と書いてくれました。それを読んで、私は胸にピンとききました。それまでは自分の信者さんを作りたいと思つて布教していた様に思います。信者になつて教会をたすけてくれと声を掛けていたように思います。おたすけではありませんでした。そんな所に誰も行きたくはありません。

教会に来た人が、門をくぐる前より帰って行く時の方が明るくて元気になる、銭湯で疲れを癒やしてさっぱりして出てくるような、そんな生活の一部としてある教会が絶対に必要だと私は思います。そして、なんとかおさづけを取り次がせて頂こうと通らせていた中におちばに帰って下さる方を御守護頂きました。意気揚々とおちばを帰りをしておちばの説明をさせて頂きました。教祖殿にお連れして、教祖のひながたの道すがらをお話しさせて

頂く中で、教祖の通られた一コマーママが目には浮かび胸が詰まる思いがし、話そうにも話せなくなりました。そうしている、後ろで誰かが見ているのを感じました。私は、教祖だ、教祖がいつもそばにいてニコニコと私をご覧下さっているのだと思えました。その時とても嬉しくて、ストーンと胸に落ちるものを感じ、これで私は安心して天理教の信者ですと言えると思えました。教祖が私の手を取って引つ張って下さったという気持ちになり、ご存命の教祖のお働きを感じることによってお道を通る誇りを持たたという経験があります。

話を元に戻します。日本にいたり当たり前の事が、海外では当たり前ではない事によく頭をぶつけますが、そこそが海外に出る一つの効能だと思えます。考え方の違う人と出会うことで改めて気付けなかった事に気付ける、人間とは、信仰とは何だろうと、深く見つめ直せるという効能があると思えます。私もキリスト教の文化圏で御用をさせていた中で、より一層お道の有り難さ、尊さを感じさせて貰いました。アメリカ人と日本人には厳然として違いがありますが、人間としての

基盤に共有する部分があるということ、私にとって大きな発見でした。歴史も常識も、あらゆるものが違うが根つこの部分では繋がっている、言葉が通じなくても気持ちは通じ合える事を、本で読んだ知識としてではなく、実感として体験できたことは大きな財産になりました。

親神様を親とする一列兄弟の同じ人間だから、教祖の深い普遍的な教えも通じ、相手にも必要とされる、たすけることが出来る、たすかってもらえる、それが海外布教の前提だと思えます。宗教とはもともと生き死にや、人間の根本に働きかけるものです。人間の一生の枠組みはこの人間も変わりませ

ん。その人間生活、人間として共有するものがあるから海外布教が成り立つのだと思えます。どんな民族にも宗教はあると聞きます。親神様は、人間に神様を感じる感性を備えて下さったように思えます。無神論者の方も、行き詰まってどうにもならない時には、天を仰ぎ救いを求める瞬間があると思えます。世界中のどんな人間でも、親神様は燦々たる御守護を下さっており、それが何か分からなくても、何かしらを感じる、そういった感性が備わって

いると思えます。

私は30代半ばで肝炎になり、40代で肝硬変、そして50代半ばで癌が出来ていると言われました。薄々心配はしていました、いざ言われると頭が真っ白になりました。身上を頂くと自分の無力を痛烈に感じます。自分の命の始まり、終わりは自分でどうすることも出来ません。親神様から身体をお貸し頂いて、借りているものなら時が来ればお返ししなければならぬ、このか

しものかりものということに関しては、どこの国の人間ということも無いと思えます。夜中、病室で自分の出直しについて考えました。誰しもが死ぬことは怖いのです。しかしどんな悲惨な状況でも、管にいっぱい繋がれていても、生かしてもらっているということは、神様に見放されていない、御守護を頂いている証拠だと思えます。自分が心配せずとも、ちゃんと産まれてきて育ったように、出直す時もちゃんと神様の方で段取りして下さるのだから、恐れるに及ばずと思えました。信仰者の強さとは、教祖に支えてもらっている他に何も心配することのない強さだと思えます。節をお見せ頂いた時には、神様は残酷だ、理不尽だ、不条理だと

七転八倒して、もうどうしようにもどうにもならないという状況に遭遇しますと、もうもたれるしかない、と漸く腹が決まります。そしてもたれさせてもらうと、目の前が開け、教祖はなんと温かいのだろう、神様に守って頂けると一層感じます。恥ずかしながら普段通っている時は忘れていたことがほとんどなのですが、苦しいときほど親神様、教祖をもっとありありと感じられました。身上をいただいたおかげで、生かして頂いていることが、教祖の教えお働きが、有り難いと思うようになりました。

国内外を問わず、結局は自分自身が教祖への信仰にどれだけ深く掘り込めるかだと思えます。教祖の教えは間違いない、と聞かせて頂いています。このおさづけで御守護頂くと、教典に書いてあります。こういった受け売りの間接的な言葉では人の心は動きませぬ。この教えは間違いない、必ず御守護頂くと、この道で幸せになると心の底から自分自身がそう思っただけで言えるかだと思えます。これはアメリカだろうと、日本だろうと変わらないと思えます。

広いアメリカ大陸、信者さんは色々

などところにおられるので、普段しよつちゆう顔を会わせることは出来ません。しかし、離れていてもその人の事を思い念じて、神様にお願ひさせて頂く事が繋ぎになります。普段会えなくても、自分の事を理解してくれて、許してくれて、そして繋いでくれる人がいる。これはやはり有り難い。ある日私がアメリカ伝道庁で仕事をしていたと、ある韓国人の老婦人が訪ねてこられました。話を聞くと、子供の頃韓国で家の近くに天理教の教会があり、教会のおばあさんの会長さんがおいでおいでと手招きをしてくれ、そこへ行くといつもお菓子を手のひらにおいてくれ、それが嬉しくていつもその教会に行っていたそうです。その後成長し、結婚してアメリカに渡って来ました。が、そのおばあさん会長さんの事はすっかり忘れていたそうです。ところが、今バスに乗っていると天理教の看板が見えて、おばあさんの事が目に浮かび、訪ねてこられたとのことでした。

話を聞かせてもらおうと涙く喜んで下さり、その後、毎月月次祭にも参拝して頂けるようになり、おちばに帰り、よふぼくになって下さいました。その息子さんもおちばに帰って下さいました。

た。もし、その韓国の教会長さんがいなければこの事はありませんでした。韓国で蒔いて下さっていた種が、60年後にアメリカで芽を出すという不思議を経験させて貰いました。おそらく、その教会長さんは、この韓国の女性の事をいつも思い念じて、神様にお願ひして下さったのだと思います。そしてその思いを神様が繋げて下さったのだと思います。

海外布教はとてもコストパフォーマンスが悪くて、自分の代だけでは芽が出るとは限らず、長い長い年月が必要だと思えます。自分の代では花が見られないかもしれないが、今世で結果を見るより来世で見た方がもっと楽しみではないでしょうか。海外布教にはこのような非常に大きな気持ち、長い気持ちでの喜びがあるのです。今、お道の教会にはもしかすると国内のことで手一杯で、海外のことまで手が回らないという方もおられるかもしれない。しかし、本来、おたすけとは、人もお金も時間も持ち出しです。私の横須賀での布教の様に、信者になつて教会をたすけて下さいというのではなく、持ち出して、そして見返りを求めずに一生懸命尽くさせてもらう

から、大きな徳を頂き、結構を見せて頂けるのです。国内が上手くいってそれから海外にということではいつまで経つても始まりません。ついでのことではないのです。立教時の親神様のお言葉は、「世界一列をたすけるために天降った」です。「日本人をたすけるため」ではありません。世界だすけが親神様の元々の目的そのものだと思います。なぜ海外布教かと申しますと、それは彼の地で苦しんでいる人にたすかって欲しい、陽気暮らしして欲しい、その一点に尽きるのでと思います。神様の目から見れば、日本人もアメリカ人も韓国人もヨーロッパ人もない、皆等しくかわいい子供、人間なのです。国内でも海外でも、困っている人にとすかって欲しい、陽気暮らしして欲しい、その思いこそが海外布教の原点だと思えます。

実地日 29年8月6日
参加者数 少年会員7 育成会員7 計14

教会子ども会の報告

引野隊

内容 おつとめ、おはなし、ひのきしん、図書券を渡す(大好評です)。
感想 8月6日は祭典でありましたが、夏休みでもあり、日曜日なので、集まりやすいかなと思ひ、この日に実行しました。祭典のおつとめを勤めて、簡単におはなしして、食事のあとはひのきしんなどを行う。

こころの詩

笠岡の教友が選ばれ掲載されてしまったので転載いたします。(敬称略)

▼『天理時報』

▽11月19日付「時報歌壇」

- ・海松ヶ岡◎ 池田広子さん
- ・お隣へゆで栗かかえお裾分け 金木犀が迎えてくれる
- ・福満◎ 福島悦子さん
- ・畑とう我がステージを降ろされて 術後の暇をひねもす絵を描く

▽12月3日付「時報俳壇」

- ・備中◎ 塩飽利子さん
- ・かき寄せて焚くにはおしき柿落葉

▼『陽気』誌12月号「道柳」より転載。

▽佳 詠

- ・芦品◎ 金谷眞佐代さん
- ・やとことさたどり着いたよこの道に
- ・東悠◎ 田林美智子さん
- ・用木や門出のつとめ着足袋光る

▼表紙写真(島中分教会提供)



東礼拝場で集合案内

布教部(田中隆之部長)は11月25日(土)・26日(日)に別席・伏せ込みひのきしん団参を行い718人がおちばに集った。25日午後12時30分東礼拝場に集結し、大教会長様のお手に合わせておつとめをつとめた。その後、別席者は別席場に向かい他の帰参者は本部駐車場北側周辺の落ち葉・ゴミ等の清掃をさせて頂いた。

「別席・伏せ込み ひのきしん団参」実施

11月25・26日

布教部



晴天の中でひのきしん

午後5時から詰所で夕食を済ませて後、午後6時からおかえりの集いを3階講堂で開催し各ブロックの準備された食べ物やギター・ダンスの催しで楽しく過ごした。別席者の数は次の通り。初席6人、中席21人、おさづけ7人。来年の別席・伏せ込みひのきしん団参は11月25日(日)に行います。



ひのきしん団参 百花繚乱



AFTER

府世原分教会



BEFORE

青年会笠岡分会(上原明勇委員長)

「有志ひのきしん隊」
実施
青年会



AFTER

久津分教会



BEFORE

は、11月7日、府世原分教会(広島県世羅郡)で有志ひのきしんを実施した。今年で3年目となる同教会でのひのきしん。教会前の道にかかる竹の伐採や、落ち葉の収集を7人で行った。

今回のひのきしんによって、雪の重みで竹がしなり、道に覆いかぶさる心配が無くなった。

12月の有志ひのきしん隊は、6日に久津分教会で実施し、4人が参加した。

こちらでは今年2回目の実施となり、敷地内の草刈りや、覆い茂った庭木の整備を行った。寒空の下であったが、勇んでひのきしんに取り組み、庭は見違えるようにすっきりとした。尚、笠岡分会では、来年以降も有志ひのきしん隊を実施していく予定となっている。

よふぼく勉強会開催

テーマは「布教の家を出て」

11月月次祭後

育成部

育成掛(中島誠治主任)は11月21日、祭典終了後、会議室で「布教の家を出て」をテーマに「よふぼく勉強会」を開催し多数が受講した。稲倉分教会後継者、北川茂久講師は、「布教の家」に入るいきさつ、入寮してどう通ったか、卒業してからの動きの3点について話された。



布教寮での貴重な経験を話す北川氏

入寮には教祖百三十祭に向かったの三年千日、仕上げの年に心を定め自教会の会長より「この句にしか出来ない経験だからしっかりと通るように」と励まされ勇んで入寮。

「布教の家」は全国に16ヶ所(内女子寮3ヶ所)各教務支庁を拠点に活動している。入った岡山寮は、朝8時神名流し、9時お願い勤め、9時半から4時半まで一人で布教の日常。岡山寮では「1日100軒まわりなさい」との指導。そう動くと実際に100軒に1軒くらいは少し話しが出来た。寮の先生は「とにかく歩いて歩いて教祖のお供をさせて貰うんだ」という気持ちで通るところ

に自分を必要とする人に会わせてもらおうと教えて頂く。その中には怒鳴られたり、警察を呼ばれたり、頭を押さえられたりすることもありました。先生には「自分のいんねんを切つて下さっている」と夜のねりあいであえられた。

また岡山寮はおさづけの取り次ぎに力を入れている。私は1日に10軒位はお取り次ぎいたします。100軒回つて、10軒、元気な方でも、より元気になつて頂くために取り次がせて頂いている。

1年通らせて頂いて親神様のご守護、教祖のお導き、親々の御徳があつてたくさんの出会いを頂きました。

様々な経験をして2年が経つ今、自教会で青年をしながら、今年の4月から岡山寮のカウンセラーを勤めています。布寮寮の寮生は真柱様から「おたすけの最前線」という言葉を頂いています。

私も「布教の家」は人生のかわる1年、自分の殻を破れる1年になりました。存命の教祖を感じられる場所ではないんじゃないかと思つていきます——と結ばれた。

若人のつどい開催

弟子会長委員
会育成教育

11月23日、教会長子弟育成委員会(森本忠善委員長)は、大教会で「若人のつどい」を開催した。「育成」をテーマに開催された今回は、20歳から50歳までの男女52人が参加した。

開講挨拶で大教会長様は、日常生活において、周りの人たちのおかげで自分がいる事に感謝し、声をかけるところからおたすけが始まると述べられた。



瀬藤友昭先生の講話

続いて、瀬藤友昭先生(大恵山分教会長・広島県立東高等学校長)が、「自分にできること」と題して講話を行った。瀬藤先生は、信仰を基に30年間の教員生活で大切にしてきた事や、自身の子供に伝えてきた事、現在のおたすけから感じた事などを様々なエピソードを交えながら話した。

昼食時は、婦人会が心をこめて作った豪華なメニューに、参加者の心もほ



それぞれの体験を話す大月さん(左)と三島さん(右)

ぐれ笑顔が見られた。
午後からは、大月勇樹さん(稲倉分教会)と三島瞳(新山邑分教会)の2人が信仰感話を行った。大月さんは、足の身上を通して、三島さんは教会に嫁いできてからの出来事を通して、自身の心の向きが変わっていく様子を語った。
また、「自分が実践していく育成」を明確にするために、参加者一人一人が、育成項目をリストから選び、書き出す時間も設けられた。
参加者は、つどいを通して仲間と信仰を語り合い、自分にできる育成活動を定め、成人の歩みを誓った。



育成項目を真剣に選ぶ

タンザニア 訪問記③



大教会役員夫人
上原千枝子

タンザニアの電気事情は聞いていた通り、いきなりの停電を最初の夜に経験した。町中が真っ暗になり車のライトだけが頼りになった。暫くすると暗さに目が慣れる。人々は慣れているから動きが止まらない。こんな中でも車は動き事故があってもおかしくないはず。暴動や窃盗がないのだろうかと違う心配をしながら20分位の後、復旧した。

水事情も衛生面も時間を追うごとに日本で過ごす感覚を訂正されるが多かった。さすが主人も和代ちゃんも慣れたもので、食事の場所を出されるコップなどを持参したウエットティッシュで手際よく拭いてくれる。外での食事はバラエティーにとんだものではないけれど、バーベキューにされた山羊の肉やカチュンバリ(東アフリカ風野菜サラダ)はとても美味しかった。ダルエスサラームからエディナの住むアルーシャまでは車でおよそ14時

間。以前はもつと道路も悪かったそうだが、幸いにも今年完成したばかりの国道はとても綺麗でスピードも出せそうだった。移動の運転をつとめてくれたチュビさんは日本で仕事をしていた事もあり、時々日本語を織り交ぜて笑わせてくれた。気がつくスピード違

反だと警官に車を止められ、不機嫌そうに車から降りて何やら口論する様子を車の中から眺める事もしばしば。タンザニアの大統領が昨年変わり、政府も不安定で少し混乱しているから余計に罰金で稼ぐ警察が多いと愚痴るチュビさん。大きな町に入る前には必ず取り締まりをしているのは異常だと思うけれど、あのスピードメーターは本当に正常なのか？

それよりも、そうして止まっている車の周りにはいつのまにか自作のおもちやを持って買ってくれと子供達が集まっていた。車の中の私達が地元の間でないことを遠くから見ているのだろうか。"チーナ(中国人)?"と私達をみて聞いてくる。"ノットチーナ、ジャパニ!"近年この国にも中国人が様々な所に介入して事業を広げている。日本人と知り子供達が"これいくらにするから"と商売を始める。この

おもちやを売ったお金を彼らはどう使うのだろうか。長距離バスの停留所では、子供達だけでなく大人も民芸品や食べ物や肩や頭に載せて売りに来る。どんな人も生きるためにたくましく、表情が活き活きしているように感じられた。

この国道の両側には舗装されている様な道は見当たらない。途中どろどろの水たまりかと思ったが、横に川が流れていることに気が付いた。目を凝らすと何かが泥水の中に動いていた。数人の大人や子供がそこで水浴びをしているのが分かった。表情までは見えなかったけれど、私には衝撃的な光景だった。

あと1時間で日付が変わる頃、エディナ家族が私達を出迎えてくれた。この道のりを修養科に来るビザを取得するために、何往復も足を運んでくれたんだと、改めて彼女の努力に頭が下がった。朝を迎えカーテンを開けると、庭先の木の上からサルがこちらを見ていた。次男のエリックと従妹が庭の掃き掃除をしている。台所でエディナの娘フロレンスやお手伝いの女の子達が朝食の支度してくれていた。その横の廊下をにわとりが歩いている。暗



キブヨファミリーと共に

くて見えなかったエディナの家や庭の様子が分かり、自分の幼い頃と重なって懐かしい気持ちになった。今回の一番の目的、神実様を玄関を入りすぐの大広間の正面に祀らせて頂いた。お礼のおつとめと半下りをエディナ共々つとめさせてもらえた。この家からおちばを慕いおやさまを慕って人々が集まってくる場所になってもらいたいと切に切に願った。エディナの旦那さん、キヴヨさんは医者立場であるが、おさづけも真摯に受けてく



アマーニ孤児院にて

れ、神実様を祀る事も喜んでくれていた。滞在時間35時間のアルーシヤを後にするとき、神実様の前にはエディナ家族を含め、13人が集まり、おつとめをさせてもらい、台風のような再会に別れを惜しんでダルエスサラームへと向かった。

残った時間は36時間。私が皆より一足先に帰るのでスケジュールが過密になる。サポートしてくれるマコタも状況を理解してくれ、残り2つの目的のために動いてくれた。毎回の訪問で続けられてきた孤児院への支援も、固定してきたものではなかったの、落ちていくに連続的に支援する施設が無いのかと相談したところ、ダルエスサラームから1時間程のジンガという村のアマーニ孤児院を紹介してくれた。施設の責任者から院内を案内してもらい、施設の内容や子供たちの生活を聞

き、子供達とも少しの時間接することができた。しっかりした情報が掴めたわけではないが、今後の動きに繋がればと思う。

5年前よふぼくとなったナイマと4年ぶりに会うことが最後の目的。政府関係の仕事をしている父キルワさんの家は写真では見ていたけれど、本当に大豪邸でナイマはいわゆるお嬢様だった。そんなことはともかく、少々やんちゃで茶目つ気たつぶりだったナイマは父の仕事を手伝うキャリアアウーマン(♀)になって色んな国を飛び回っているらしい。おさづけを拝戴出来たとき、彼女は血が変わったと言った。あれから時間は経ったけどおつとめの手振りや地歌はちゃんと覚えてくれていた。フライトを明日に控え、遅くまで日本で接した人達の現況や彼女の身の事など和田ちゃんら3人で話に花を咲かせた。

用意していた目的は、一応果たすことが出来、ナイマの運転で空港へと向かった。渋滞で飛行機に乗れるかスリル一杯だったので、別れの挨拶もそこに税関を抜け、子供たちの待つ大教会へと戻ってきたのは、5月30日の夜中だった。子供たちの寝顔を見てみ

んなが無事であったことに心から感謝した。

「上原志郎さんの奥さんですか。ご主人の検査で胃がんと分かりましたが、広範囲にわたるものでどれ位進行しているの分かりません。まだ若いですから一刻を争います。」アメリカ全土に教会を作るといふ主人の無謀な夢に近づく努力をしているさなかの事だった。16年前、私達夫婦家族に訪れた大きな節。夫婦で泣き、話し合い、出来る限りの心定めをし、胃全摘手術を受けました。自分たちが生活する空間、又教会には多くの方々からの真実が集まり、その真実の中で、守られ育



キルワファミリーを訪れて

てて頂いているご恩をまず返していくことがつとめ。背中にいる子供に空を眺めながら「あの飛行機に乗っていつかおやさまの教えをアメリカの一杯の人に知ってもらおうね」と語りかけていた自分の心、海外の思いを奥に仕舞い、夫婦で一から出直しの日々が始まりました。「海外を目指すこと」主人の身上」の様な恐怖心もどこかにあり、動くことより守ることを選んで私なりに過ごしてきたので、今回子供たちを留守番役において、8日間家を離れることはとても勇気がいりました。

それでも私にとって不思議な後押しを力沢山与えて頂き、タンザニアに行かせて貰えたことは、次またいつ行けるか分からないという気持ちと重なり、用意していた幾つかの課題をこなす為に過ごす192時間でもありました。

ことしの夏の子どもおちばがえりて天理プールを泳ぐ子供たちを眺めていたら、ふつとアルーシヤに向かう途中目にした泥水の中の子供達が浮かんで涙が込み上げた。あちらの子達をいつかこんなきれいな水で泳がせてあげたい。今置かれている私達の環境は本当に有難いのだと訪問から日が経つにつれ、感じさせてもらう。

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦 人 会	青 年 会	少 年 会	学 生 会 学生担当委員会
1				
2	21・22 直轄委員部長・委員研修会			21 学生層育成者講習会
3				3～9 学修 大学の部 10～12 学修 高校卒業生コース 28 春の学生おちばがえり
4	19 天理教婦人会第100回総会	巡 回	30～1 鼓笛合宿 1 笠岡団おつとめまなび総会	22 おちば管内新入生歓迎会
5	25 全委員部長講習会	27 あらきとうりょう入門塾	21 縦の伝道講習会 27 テッチャンと遊ぼう わかぎのつどい	
6	9・10 こかん様に続く会 (大教会)	1～24 おやさとふしん 青年会ひのきしん隊入隊 15～17 三日隊		
7		1 ひのきしん団参		
8			26～4 こどもおちばがえり 21～23 サマーキャンプ	9～15 学修 高校の部
9	23 委員部長後継者講習会			
10	未定 ひまわり会のつどい	28 第94回天理教青年会総会		
11	3・4 こかん様に続く会 (おちば)			
12				
備 考	◎例会日(毎月3日) ◎直轄委員部長連絡会(21日) ◎ひまわり会(2日) ◎女子青年例会(随時) ◎大教会掃除ひのきしん (毎月19日)	◎あらきとうりょう一斉にをいげデー (毎月第2日曜日) ◎有志ひのきしん隊(毎月)	◎教会おとまり会の実施 ◎テッチャンシアター (親子参拝) 1・3・4・7・8・10月の21日 祭典後	

◎よふぼく勉強会 毎月21日 午後1:15～2:00 (但し、大祭月、祭典講話が外部講師の月を除く)

立教 1 8 1 年(平成30年/2018年)

部会 月	全体行事 その他	ひのきしん	布 教 部	海 外 部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	5~15 本部食堂(東ブロック) 25~27 春季大祭詰所受入		
2	2~15 部内巡教 5~7 管内高校生受験世話取り 26~27 教会長講習会(笠岡詰所)	16~28 本部食堂(島根ブロック)		
3	2~15 部内巡教 4 雅楽勉強会 28~29 修養科修了講習会			広島公園にをいがけ (英文パンフレット配布)
4		17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	8 アフリカ孤児支援バザー
5	4~18 直轄教会定期巡教 6 大教会長杯親睦スポーツ大会	1~15 本部食堂(西ブロック)		
6	夏季 草刈り 28~29 修養科修了講習会	1~20 直属ひのきしん特別隊 (福山ブロック)		
7		1~23 直属ひのきしん特別隊 (高屋ブロック) 16~31 本部食堂(上下ブロック)		
8	26~4 こどもおぢばがえり 30~31 雅楽講習会 (福山ふれあいランド)	26~5 こどもおぢばがえり詰所受入 前半：7/26昼~31昼 後半：7/31昼~8/5昼	21 布教推進講習会(祭典後)	7・8 英語講習会
9	2 若人のつどい 28~29 修養科修了講習会		1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいがけデー	
10	剪定・障子張り 4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(府中市ブロック) 25~26 秋季大祭詰所受入		
11	25 別席ひのきしん団参			広島公園にをいがけ (英文パンフレット配布) 21 海外伝道講習会 (月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 22 年末大掃除 28~29 修養科修了講習会	27 詰所餅搗		
備 考	◎部長会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎役員並びに直轄教会長会議 毎月29日 午後 2:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭前日夕 勤後 舞楽練習 随 時	註：ブロックの区分けは 東：岡山県以東の直轄教会 とその部内教会 西：広島県以西の直轄教会 とその部内教会 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 10月25日	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふばく月報

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます
親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様の子供かわいい一条の親心溢れる御守護により 肌寒い中にも色鮮やかな紅葉を見させて頂き多くの実りを得てお腹も満腹にと 身も心も満足な季節をお与え頂き日々は結構にお連れ通り頂きます事は誠に有難く勿体ない極みでございます しかるに世の多くの人はその日の生活に追われ心のゆとりを失い 相手への思いやりを忘れて顔の見えない事をいいことに感情のままに時に流され 知らず知らずの内に心を傷つけ合つて感謝の心を見失っています事は誠に申し訳ない次第でございます 私共は喜び感謝の心を取り戻し「恩報じする事の大切さを一人でも多くの人に伝えるべく 日々は朝夕に御礼申し上げつたすけ一条のご用の上に努め励ませて頂いております

その中でも今日の吉日は たすけの元立てとお教え頂くおつとめを勤める日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一人に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて十一月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には寒さを厭わず今日の日の日を樂しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を唱和し日頃のご高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお縋りする皆の真実の様子をご覧下さいます 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて本日は祭典に引き続き海外伝道講習会を開催させて頂きます 「世界一列を助けたい」との親の思いに応えるべく復元と世界助けにご尽力下さった二代真柱様にもお喜び頂く為には 海外伝道も視野に入れて日々のにをいがけおたすけに励まなければなりません その一助にしたいと思ひます 又二十三日には若人の集いを開催させて頂き次代を担う若者の育成にも力を注いで行きたいと思ひます 更には又二十五・二十六日と別席ひのきしん団参を実施させて頂きます この団参目指して今年今日までにをいがけおたすけにと励ませて頂いております 一人でも多くおちば帰りして頂くと共に道中事故怪我等無いよう御守護頂き 皆が笑顔一杯になるようお連れ通りの程をお願い申し上げます

何卒親神様には 時代の流れに飲み込まれないよう親孝心一筋に踏ん張り たすけ一条に励む皆の誠実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 親神様教祖に凭れたすけ一条に邁進する人が弥増してお望み下さる陽気ぐらしの世が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

◎教人資格講習会(全期)修了者

立教180年12月11日終講
新山邑 三島 美保子

◎教人資格講習会(後期)修了者

立教180年12月11日終講
稲倉 林岡 君江
神村 前田 多真栄

◎別席ひのきしん団参

詰所受入ひのきしん

自 立教180年11月25日
至 立教180年11月26日

- ・東ブロック 皆部 常井 二三代
- ・西ブロック 久福 佐藤 憲美
- ・福山ブロック 引野 中村 由美子
- ・高屋ブロック 稲倉 藤井 宏一
- ・島根ブロック 島根 神門 さと
- ・上府ブロック 甲井 山田 信子
- ・その他大勢の有志の方々

立教百八十年 十一月月次祭 祭典役割表

胡弓	三味線	琴	小鼓	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	笛	おつとめてをどり	地方	役割		講話	祭主		扨者									
											区分	役割		指図方	賛者										
上原順子	今川佐智子	虫明好美	中村義太郎	吉岡壽	森本忠平	佐藤道孝	谷内伸自	中島誠治	門脇郁子	田中ますみ	大教会奥様	上原繁道	上原明勇	大教会長様	森本忠善	菅尾正治	田中隆之	海外伝道講習会	杉原博之	大教会長様	中村道徳				
内海安子	武内正美	佐藤香苗	岡田誠	山田敏教	田林久嗣	中村剛	横山逸郎	武内清明	中村初美	谷内美知子	岡崎豊子	三島涉	杉原博之	門脇元教	佐藤真孝	山野弘実	上原浩	春季大祭講話	指図方	賛者	大教会長様	吉岡壽	虫明立生	高木昭祥	
三島照美	笹尾一美	森本富美子	赤木素志	虫明立生	渡邊隆夫	高木昭祥	上原繁次	浅野明教	岡崎和美	横山小智榮	門脇加津	吉岡誠一郎	岡崎真一	中村邦義	内海史郎	中村道徳	今川昌彦	後半							



今年、私は生涯でも忘れる事ができない程の美男美女に出会った。といっても、芸能人やモデルに出会った訳ではない。どこで出会ったかといえば、おどばで開催中の後継者講習会だ。私は、班付き世話係という御用を頂いており、毎回30人弱のクラスを受け持っている。10月に受け持ったクラスの中に、20代のT君とWさんという受講生がいた。T君は、エンジニアとダンサーという二つの顔をもっており、Wさんは、子育て真っ最中の母親だった。その二人は、いつもとびきりの笑顔で、周りの受講生も笑顔にするほどのキラキラしていた。

T君は、教会の子どもで、生まれながらにして耳が不自由だった。幼いころから耳の事でいじめに遭い、また、家計も苦しかったことから、将来を夢みることもなく、兄弟のために働かないといけない諦めの人生を歩んでいた。人と話す事が怖く、家族でさえ遠ざけている時期もあったという。ただ、少年ひのきしん隊や学生会には参加をしており、お道の考え方を少しずつ学んでいた。そんな彼は、耳が聴こえないとはどんな事なのかを大学で学び、その時ダンスと出会った。手話とダンスを混ぜた『サインダンス』というダンスを通して、差別や偏見から苦しむ自分と同じ様な人をたすけたいと現在、全国で活動している。人をたすける事ができると思えば、つらい事でも乗り切れるし、それが原動力ですとT君は、私に教えてくれた。またWさんも、幼い子を連れて受講していたが、女性の温もり、母親としての喜びを感じさせる笑顔、立ち振る舞いで3日間をすごしていた。

この二人は、現在間違はなく幸せだと思ふ。『心の向きが変われば、人生はもつとワクワクする』が、後継者講習会のキャッチフレーズだが、まさにそれを見せて頂いたような出会いだった。

『心に錦は神の望み』ときかせて頂くように、来年も1年しっかりと心に錦を持って歩ませて頂きたいと思う。

(う)

昭和57年 (1982年)

9	9	眞府分教会恒例祭日変更 (毎月十三日→九日)
26	26	神邊分教会移転建築模様替
9	9	旧所在地：広島県深安郡神辺町大字川南三千百十八番地
26	26	新所在地：広島県深安郡神辺町大字川南六百七十一番地一
9	9	鎮座祭：十一月三日
26	26	奉告祭：十一月二十三日
9	9	神邊分教会恒例祭日変更 (毎月十八日→十六日)
26	26	上下分教会恒例祭日変更 (毎月十六日→十四日)
9	9	立教百四十五年下半年布教実修会 (十二月まで)
10	10	高屋分教会創立九十周年記念祭執行
25	25	修養科修了者決起の集い (第八三母屋)
10	10	本部で教祖百年祭三年千日決起の集い開催
26	26	本部で教祖百年祭直屬教会長夫妻講習会開催
10	10	本部で教祖百年祭直屬教会長夫妻講習会開催
28	28	本部で教祖百年祭直屬教会長夫妻講習会開催
30	30	布教所長成人講習会 (百三十人)
23	23	神邊分教会創立九十周年記念祭執行
11	11	米美分教会親神様・教祖・お社取替及建築模様替並附属建物増築
26	26	鎮座祭：十二月五日
11	11	奉告祭：十二月六日
28	28	青年会部属分会委員長研修会 (五四人)

立教145年

6	21	中川矩子先生を迎え縦の伝道講習会 (四五〇人)
7	26	金浦分教会五代会長西江直任命 (四代会長西江スガ辞任)
7	25	就任奉告祭：十月十日
7	25	こどもおぼろばがえり第一団出発 (神邊 二八日まで)
7	29	こどもおぼろばがえり第二団出発 (高屋・久松 八月一日まで)
7	31	こどもおぼろばがえり第三団出発 (福山 八月四日まで)
8	1	こどもおぼろばがえり第四団出発 (直轄 四日まで)
8	6	第二十九回夏季英語講習会開催 (七〇人 九日まで)
8	22	少年会おとめまなび総会開催 (六〇〇人)
8	23	こかん様に続く会開催 (四〇人)
8	26	大野佐七、松田舎子両先生を迎え教長講習会 (二四〇人)
8	26	福昭分教会五代会長平盛スミエ任命 (四代会長平盛集美 昭和五十七年四月二十四日出直)
9	9	就任奉告祭：十月十日
9	9	立教百四十五年下半年布教実修会始まる (十二月まで)
9	15	福山分教会創立九十周年記念祭執行
9	26	府世原分教会恒例祭日変更 (毎月十五日→十二日)
9	26	河面分教会恒例祭日変更 (毎月十四日→八日)
9	26	國須分教会恒例祭日変更 (毎月十一日→七日)
9	26	上小畠分教会恒例祭日変更 (毎月十四日→十日)